



西村証券

チーフストラテジスト  
門司総一郎の

# ウィークリーレポート

2021年  
2月26日  
発行

第77回

「株式市場の下落について」

## ～FRBの反応に注目～

### 初めに

昨日の米国株は大幅安、それを受けた本日の日本株も下落しています。今回はこの日米の株価下落を取り上げます。

### 米国株下落の背景

日本株下落の理由は米国株の下落ですが、米国株下落の理由は今ひとつはっきりしません。まずこの点について考えます。今回の米国株下落の理由として挙げられるものには以下の2つがあります。長期金利の上昇と株価の割高感です。どちらが原因という訳ではなく、その両方が影響した結果、株価の下落につながったと思います。

### 長期金利の上昇

昨年末まで米国の10年債利回りは安定的に推移していました。しかし今年に入って利回りは上昇に転じており、直近では1.6%に達しています。FRBのパウエル議長は景気が改善するまで金融緩和は必要といった発言を繰り返していますが、ここまで金利の上昇に対して特に懸念を示したり手段を講じたりすることはありませんでした。そのため市場の一部にはFRBはこのまま金利の上昇を容認するのではないかとの見方が生じているようです。このFRBの姿勢に対する疑念が株価下落の理由の一つとされています。

### 米国株の割高感

以前から米国株、特にナスダック市場に多い成長株に対しては、株価が高すぎるのではという指摘がありました。この割高感が米国株下落のもう一つの理由と指摘されています。昨日テスラの生産が一時停止になりました。テスラの株価は大きく下落したところを見ると、この報道によりテスラに対する懸念が生じ、それが成長株全体に波及したということもありそうです。

### 今後の見通し

ここからは今後の見通しについてお話しします。今申し上げたようにポイントはFRBと成長株の割高感への懸念です。従って現在の金利上昇に対してFRBがどのような対応をするかが大きなポイントになると思います。もし金利上昇を牽制するような発言が関係者からあれば株式市場も落ち着きを取り戻すと思います。しかしパウエル議長などがこのまま沈黙を続けるようであれば株式市場も株価が一段安となる可能性をありそうです。ただFRB関係者の間でもこれまで現在の金融緩和策に対して続けるか段階的に縮小していくか意見が割れている模様です。いずれにしてもこのFRBの対応が今後の株価を考える上での最も重要なポイントです。成長株の割高感についてはそれそのもので株価が下落することはないと思いますが他の理由で株価が下落した時にその幅を大きくすることが考えられます。

### 安易な押し目買いに注意

今あげた二つの理由の他に社債のデフォルトの増加やビットコイン価格の下落など悪材料は色々指摘できます。このように考えると安易な押し目買いは控えた方が良いでしょう。

西村証券株式会社 NISHIMURA SECURITIES Co., Ltd.  
京都市下京区四条通高倉西入立売西町65番地(本社)  
TEL:075-221-9390(本店営業部)

金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第26号  
加入協会:日本証券業協会 主な事業:金融商品取引業  
指定紛争解決機関:特定非営利活動法人 証券・金融商品あっせん相談センター

本書面は特定の金融商品の勧誘を目的として作成したのではなく、あくまで情報提供を目的とした書類です。書面上の株式市場見通し等は、本書面作成時の当社予想ですが、その後の市場動向・結果・影響等について当社が保証または責任を負うものではありません。また内容については予告なしに変更される場合もあります。本書面の著作権は当社に帰属します。当社の文章による承諾なしに、第三者への配布・コピー等はご遠慮ください。